

**製品名:** リン酸化 EPHA4 (Tyr596) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab00927

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000
分子量	Calculated MW: 110 kDa; Observed MW: 110 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	EPHA4
別名	HEK8; SEK; TYRO1; Ephrin type-A receptor 4
遺伝子 ID	2043
SwissProt ID	P54764
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

**背景**

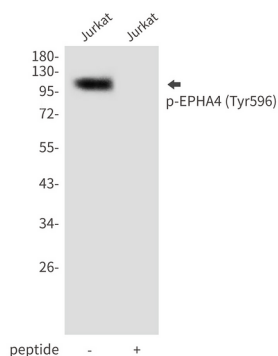
隣接細胞に存在する膜結合型エフリンファミリーリガンドに結合し、接触依存性の双方向シグナル伝達を隣接細胞に導く受容体型チロシンキナーゼ。受容体下流のシグナル伝達経路は順方向シグナル伝達、エフリンリガンド下流のシグナル伝達経路は逆方向シグナル伝達。

ル伝達と呼ばれる。非常に多種多様な性質を持つこのタンパク質は、Eph 受容体の中で唯一、GPI アンカー型エフリン A と EFNA1 および EFNB3 を含む膜貫通型エフリン B リガンドの両方に結合し、生理的に活性化されるという特性を持つ。エフリンリガンドによって活性化されると、Rac、Rap、および Rho GTPase 活性の制御を介して、細胞形態およびインテグリン依存性細胞接着を調節する。神経系の発達において重要な役割を果たし、皮質脊髄路投射の確立を含む軸索誘導の様々な段階を制御する。また、神経筋回路の発達において、運動軸索と感覚軸索の分離を制御する可能性もある。軸索誘導における役割に加え、シナプス可塑性にも関与する。EFNA1 によって活性化されると CDK5 の「Tyr-15」をリン酸化、これが NGEF をリン酸化して RHOA と樹状突起棘の形態形成を制御する。神経系では、損傷後の修復にも関与し軸索再生を防止し、血管新生では中枢神経系の血管形成に関与する。さらに、その多様性により、胸腺上皮の発達など、さまざまな細胞間シグナル伝達に関与することができる。コルチ器官の発達中は、ADAM10 および CADH1 と三量体複合体を形成して柱細胞の分離を制御し、ADAM10 による CADH1 の切断と接着結合の破壊を促進する（類似性による）。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



Phospho-EPHA4 (Tyr596) 抗体を使用した、Jurkat 溶解物中の Phospho-EPHA4 (Tyr596) のウエスタンブロット分析。